

農林水産大臣賞受賞
受賞者 こいさごびれっじきょうぎかい 小砂village協議会
(栃木県那須郡那珂川町)

【ここに日本の原風景がある ～景観と芸術による美しいむらづくり～】

1 取組の動機と背景

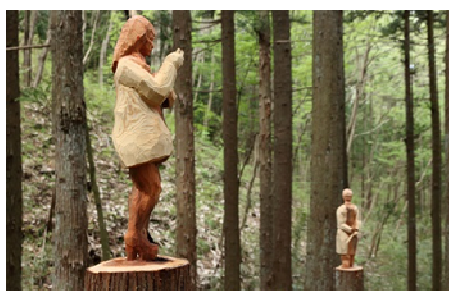
小砂village協議会が活動する那珂川町小砂地区では、住民全体で清掃活動や育成会の子どもたちと一緒に沿道へ花の植栽を行う等、地域の景観維持と美化活動に取り組んでいた。

しかし、高齢化や過疎化が進み、生活を支える商店がなくなり、公共交通機関が廃止される等、高齢者が住みにくい環境になりつつあったことから、住民同士が協力し、より良い地域づくりが必要であると考えていた。

そこで、住民が大切に守ってきた広葉樹林が織りなす里山の美しい風景を活かした地域づくりとして、首都圏の現役美術大学生やそのOBの協力のもと、里山に風景の活用と森林管理の一環として地区全体を美術館に見立てて作品を展示するアートプロジェクト「小砂環境芸術展 KEA (Koisago Environmental Art)」を平成24年から毎年実施している。また、この活動を多くの人に知ってもらうため、平成25年に「日本で最も美しい村」連合に加盟し、それを契機に「小砂village協議会」を地域住民の合意形成のもと設立し、知名度の向上を図っている。協議会設立及び芸術展をきっかけに美しい原風景を活用したトレイルラン、フットパスなどのイベントの開催に加え、農家民宿・農業体験による交流を行っている。

2 主なむらづくりの内容

- 森林を含めた地区全体を美術館に見立てて様々な芸術作品を展示・鑑賞しながら地域を周遊するアートプロジェクト「小砂環境芸術展 KEA」を開催。シンポジウムやミニコンサート等を併せて行う「小砂環境芸術祭(KEAT)」を開催することで、地域への来訪者は増加しており、芸術家の移住・定住も増加。
- 平成27年から地域住民自らが企画・設営、食事の提供等を行う「小砂トレイルラン」を開催。参加人数も年々増加し、平成30年には200名が参加。また平成30年からは、地域おこし協力隊とも連携し、昔ながらの美しい里山を歩く「小砂フットパス」も開催。
- 平成24年から棚田オーナークラブをスタートさせ、都市部住民を対象に田植から稲刈り等の体験を実施。また、地域の18軒の農家が農家民泊に取り組み、平成30年は1,000人の修学旅行生等を受入れ、都市住民と交流活動を実施。
- 地域の女性達の発案により、芸術展やトレイルラン等のイベントで地元の食材を使った食事を提供する「お母ちゃんcafé」を立ち上げるなど、協議会の活動を通じて地域の女性達が活躍。



間伐した立木を使った彫刻
「小砂環境芸術展」



交流イベント「小砂トレイルラン」



女性の活躍「かあちゃんcafé」



「農家民泊」による都市住民との交流